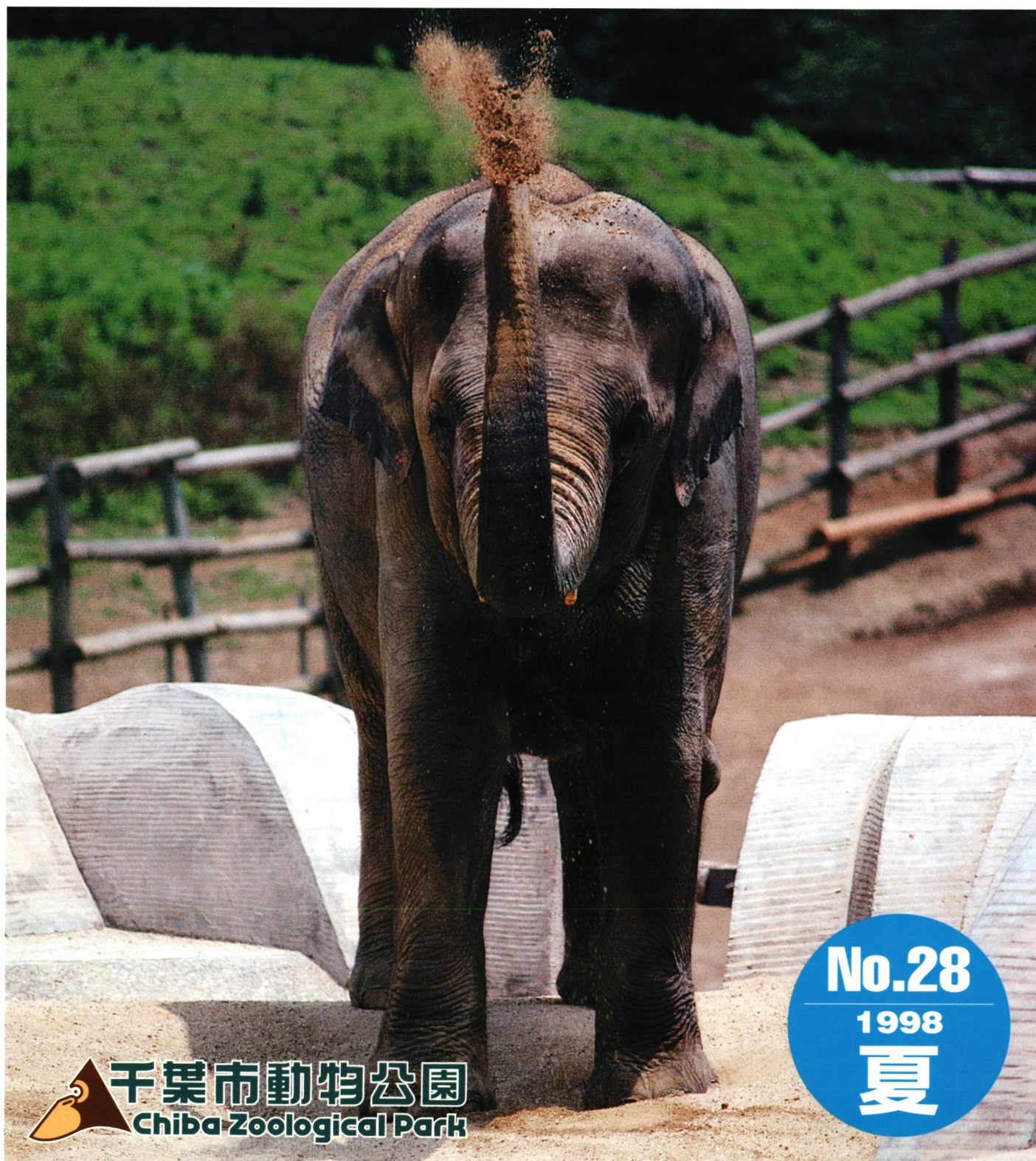


どうぶつこうえん ニュース



カササギガン

ガンカモ目 ガンカモ科

3月11日に、草原ゾーンのオーストラリア放飼場にカササギガンが3羽（オス1羽，メス2羽）が，新しく仲間に入りました。

カササギガンは，オーストラリアの北部，ニューギニアに分布しているガンカモの仲間です。

体は白く，首と翼は黒いです。くちばしから眼にかけてピンク色の皮膚が裸出していて，足は橙色です。体の大きさはオスで，頭胴長が75～90cm，体重は2800g，翼を広げた時の長さが125～165cmです。メスはオスよりひとまわり小さいです。

このカササギガンは，みなさんが思っているガンカモ類の他の鳥といろいろな点で異なっています。

他のガンカモ類の鳥は，足の指が短くて，指の間に大きな水かきがあるのですが，カササギガンは足の前指や後指が大変長く，水かきは指のつけ根にわずかにあるだけです。



1年に1度，カササギガンも風切り羽が換羽する回数は，他のガンカモ類の鳥と同じです。しかし，ふつうガンカモ類の鳥は風切り羽がいったんに抜けかわって飛べなくなり，水の中で外敵から身を守ります。カササギガンは，風切り羽がいったんに抜けかわるのではなく，徐々にかわるため飛べなくなる事はありません。

これは，草原や湿地などを歩きまわるほか，樹上にもよく止まる生活をしているためです。

ガンカモ類は，通常，オス1羽，メス1羽でつがいをつくり繁殖しますが，カササギガンは，オス1羽，メス2羽で一緒に繁殖します。乾季の始まりと共に，繁殖がスタートし，巣を作ります。巣は浅瀬に草などを積み上げてつくり，その巣に，2羽のメスは卵を計9個くらい産みます。オスを入れて3羽で卵をあたためます。卵をあたためてから23～25日後ヒナがかえります。

また，ガンカモ類では，カササギガンだけが，孵化したヒナに親鳥がくちばしで，餌を運んでヒナに与えるといわれています。

食べ物は，草の葉や根，種子などをたべるため，動物園では，1日1回，小松菜，小麦，青米，ヒエ，ニワトリの配合飼料，カモ用のペレットを与えています。

現在は，オーストラリア放飼場で，カンガルーと一緒に展示しています。カンガルーは，カササギガンを特に気にしていませんが，カササギガンが，まだなれていないせいか，昼間は，ほとんど植え込みの中に入っていて，姿を見ることができません。最近は夕方に放飼場で，見るができます。

本当ならば，エミューも一緒に展示をするのですが，カササギガンを追い回してしまうために，裏の放飼場で飼育をしています。早く皆さんに，カンガルー，エミュー，カササギガンと一緒に見てもらえるようにしたいと思います。

足立 仁之 (Masayuki Adachi)

目次

CONTENTS

表紙【アジアゾウ】	①
トピックス【カササギガン】	②
特集【来園者1千万人達成記念】	③
飼育レポート	
【カリフォルニアアシカの繁殖状況】	④
こどもどうぶつえんへようこそ	⑤
動物公園の植物【ネムノキ】	⑥
健康管理センターから	
動物公園日誌から【'98.1/1～'98.3/31】	⑦
編集後記	
裏表紙【パタスザル】	⑧

表紙の動物説明 アジアゾウ

陸上に生息する哺乳類ではアフリカゾウとならんで最大で，体長6m，体重5tにもなります。インド，マレーシア，インドネシア，中国雲南省などの南アジアの森林や草原に生息し，その巨体を維持するため一日の大半を採食についやす生活をしています。

アジアゾウは昔から飼いや馴らせて使役動物として使われ，現在もまだ奥地での木材運搬などに重要な働きをしていますが，生息地の環境破壊や高値で売買される牙をねらった密猟などで，急速にその数を減らしています。

秦 舜二 (Shunji Hata)

動物飼育数

平成10年4月末現在
Classified number of animals
as of 30, Apr. 1998

哺乳類	67種 449点	両生類	1種 1点
鳥類	90種 376点	魚類	1種 2点
爬虫類	4種 20点	総計	163種 848点

特 *Special*
集

来園者1千万人達成記念

平成10年4月5日(日)



記念式典開催風景



千葉市消防音楽隊による演奏

1千万人目、おめでとーございます



幸運の新田千鶴さん(11才)とおかあさん



松井旭市長から記念品贈呈

カリフォルニアアシカの繁殖状況

千葉市動物公園では、1988年4月よりカリフォルニアアシカ、雄1頭、雌3頭の淡水飼育を開始しました。

その結果、1998年3月までに11頭が繁殖し、うち9頭が無事生育したので、その繁殖状況について報告します。

国内におけるカリフォルニアアシカの出産時期は、そのほとんどが6月に集中しており、当園でも同じ状況です。

出産後、早くて1週間程で雌は発情し、雄は交尾をしようと雌を追いかけて回します。この行動は10月中旬まで続

き、これによって雌は傷を負うことが多々あります。そのため、雌の避難所を設けたり、傷がひどい場合には雌を隔離したりします。

そして、約315～364日の妊娠期間を経て出産に至ります。(交尾後、受精卵がすぐに子宮内膜に付着せず、浮遊している状態、遅延着床を起こすので見かけ上の妊娠期間は長くなります。)

このような繁殖周期を経て、アシカたちは子どもを生まれます。母親3頭のうち、キキは1991年(4才)に初産、現在までに6回の出産が見られ、チコも1992年(5才)に初産、1995年に死亡するまで4回の出産をしました。もう1頭のミュウは搬入当初から雄との折り合いが悪く、その後、1996年になってからようやく初産に至り、翌年も無事出産しました。繁殖した子どもの性別は雄5頭、雌6頭で、出生時体重は6.1～9.5kgの範囲内でした。

生まれた子どもは、母親による自然哺育によって育てられますが、1995年に生まれた雌個体のように、母親が途中で死亡した場合は人工哺育に切り換えます。野生固体では、子どもの授乳は約1年間続きますが、当園では、アシカの母乳量は産後、200日を過ぎた頃より減少し始め、それ以降、子どもの体重増加率は低下していくことや、子どもの餌付けが完了すると搬出することから、生後8ヶ月程で親と分け、別室で常食となる冷凍アジを解凍したもの(以後、解凍アジ)を食べるように餌付けするわけです。

隔離後、魚を食べ物として認識させるため、生きたコイ、

ドジョウを与えます。それを食べるようになれば解凍アジを併用して与え、1週間後ほどで食べるようになる固体もあります。アシカは利口な反面、頑固なことで知られ、固体によっては与えたものを餌として認識しなければ、全く食べません。そういう場合は、初めに生きたコイ等を与え、それを食べるようになったら死んだものを与え、順次、冷蔵処理したもの、冷凍後解凍したものを与えます。このように常食アジに少しずつ近づけていき、解凍アジを食べるようにし向けます。それでも食べない場合、子どもの体重等から判断して強制給餌を行います。食べない状態が長く続くと脱水症状、肺炎を起こしたり、異物誤飲をしたりします。また、そのようなことがなくても、解凍アジ摂餌後、一定量の餌が食べられず、嘔吐を繰り返して体重が増えなくなってしまいます。

以上のような方法で、自然哺育固体6頭のうち、早い固体では隔離後4日目で生き餌を食べ初め(以後、自力摂餌)、翌日には解凍アジを食べました。6頭平均で、隔離後自力摂餌するまでに要した日数は9.8日、解凍アジ摂餌までに19.1日を要し、この期間、約4.5kgの体重減少がありました。

解凍アジ摂餌後は嘔吐しない程度の量を与え、徐々に給餌量を体重の4～15%に増量していきました。

その結果、6頭の子供は1日当たりの平均増体重で0～0.4kgの割合で体重が増加し、搬出時には体重が28～50.5kgにまで成長しました。

このようにアシカの子供たちは何とか無事成長し、搬出されていきました。今頃は他の園館で第2の人生を送っているでしょう。これからもアシカの子供の誕生とその成長を見届けながら、飼育技術の向上を図っていきたいと思います。

水上 恭男 (Yasuo Mizukami)



こどもどうぶつえんへようこそ

Welcome to Children's Zoo

～子ども動物園で人気の教材紹介 ①～

子ども動物園では、飼育センターの展示室に常設されているクイズやおはなし、団体向けの貸出用の機材、標本などをたくさんつくっています。ここではそれをシリーズでお伝えしていきましょう。

紙芝居

幼稚園や保育園の団体指導の予約の際、持ち帰りできる紙芝居タイプの補助教材が人気です。現在、「ウサギのおはなし」「アンデスのモルモット」「タマゴとヒヨコ」「ヤギのおはなし」「ヒツジの1年」「草を食べる動物たち」「子ども牧場の一日」の6種類が貸出用として利用されています。



利用状況は下表の通りです。これまでの13年間の利用では、ウサギがトップ、続いてニワトリ（タマゴとヒヨコ）、ヤギ、ヒツジ、牧場、と続きます。

この傾向は毎年ほとんど変わりません。それぞれとくに対象年齢を明確にしているわけではないのですが、幼稚園の先生方が選ぶ基準は、話しのわかりやすさやどの動物を主に見せたいか、などのようです。また、小学校の先生が生徒の見学指導に使いたい、という場合には、「牧場の一日」や「草を食べる動物たち」のように、なかなか普段では見られない場所や、動物を観察しただけではわからない内容の教材を借りることが多いようです。

紙芝居タイプの教材の利点は、少人数向けで、先生方のアドリブを効かせるなど、さまざまな利用方法があるという点でしょう。現在、ロバを題材とした新しい教材に取り組んでいます。ご期待下さい。

教材の利用状況

(貸出件数) 1988-1997

紙芝居名	件数
ウサギ	451
ニワトリ	292
モルモット	89
ヤギ	246
ヒツジ	163
牧場	45
草を食べる動物たち	43

ほねほねクイズ

動物の全身の骨の絵を見て、それが何の骨かをあてるクイズです。肉食と草食では明らかに頭の部分の骨の構造が違いますし、首の長さや足の骨の太さもヒントになります。



全体のシルエットを線で表した透明シートをかぶせると、どの動物かわかるようになっていきます。作成されてもう6年たちました。たくさんの子供たちを楽しんでもらえたこのクイズですが、そろそろリニューアルを考えたいと思います。このようなクイズの貸出もできるよう、多数そろえていきたいと思っています。

比べてみよう

ウサギ・モルモット・ハムスターなど、よく知られている小動物の食べ物や食べ方、すみかや日周行動、運動などを比べてやさしく解説した読み物です。小学校の中・高学年にはいい教材だと思います。ほおぶくろの有無などの体の特徴と、巣をつくるのかどうかなど子育てに関する特徴を比べています。子供たちが間違えやすいこの3種類を題材にしています。

子ども動物園日誌より

赤ちゃんをだっこしたお父さん、ウサギの看板を見て一言「ウサギは3か月で大人になるのかなー。いいなー。」(3月7日)
係りが「だっこできたらすわってね」と3才くらいの女の子に言うと、自分の手の中のマウスに向かって「すわりなさい」と言っていました。(3月8日)

小学校5、6年生の男の子が手の上でマウスにフンをさせてしまったので、泣いてしまいました。(3月26日)

並木美砂子 (Misako Namiki)



動物公園の植物…⑬

The plants in the Chiba Zoological Park Albizia julibrissin

ネムノキ

ネムノキは、マメ科ネムノキ属の落葉高木で山地や原野、川岸などに生え、土質を選ばず日光を好む陽樹です。

分布は、北海道を除く日本、朝鮮、中国、南アジアとなっています。もともと熱帯から温帯に侵入してきたものとされています。古名は、「ねぶ」といい、古くから知られていたそうです。高さは6～9m、大きなものは20m、幹の直径が45cmに達するものもあるようです。

樹皮は灰褐色でなめらかで、打身の葉、駆虫薬に用いられるそうです。枝は太く無毛、樹木全体の姿は横に広がります。

葉は、有柄で互生し大形の偶数2回羽状複葉で長さが20～30cm、羽片は7～12対、小葉は15～30対あり長さ5～15mm、幅2.5～4mmで革質、ふちは全縁で短い短毛があり裏面は白い。夜になると小葉は閉じて睡眠現象を示します。和名はこの眠るような習性に由来するといわれます。

花は6月から7月、小枝の先に約20個の花からなる頭状花序を房状につけ、夕方、開花します。淡い紅色のやさらかな花糸に特徴があり、美しいです。

中国では、このひととき美しい夕方の花を、「傾国の美女」に例えるそうです。松尾芭蕉の詠んだ句に「象湯^{きさがた}や雨に西施^{せいし}がねぶの花」があります。これは、象湯（秋田県由利郡象湯町にあった入り江）の夕暮れ、うちけぶる雨のなか、緑の葉に浮かぶ、美しい淡紅色の花の様子を、西施（中国春秋時代の美女）とタブラせて詠んだものだそうです。

果実は、豆果で12cmくらいの長く平たい果皮で、中に数個の長さ1～1.5cmの楕円形の種子が入っています。

外観は、まるで巨大なエンドウマメをサヤごと真空パックし

たような、薄い形です。9月～10月になると果皮は褐色になり熟します。

当園の「家畜の原種ゾーン」に位置する「ラマ」の放飼場に、大きなネムノキがあります。



のんびりとたたずむ動物と、淡紅色の美しい花、涼しいような木陰は、動物と植物のふれあいを感じさせてくれ、叙情的な風景です。

齋藤 哲朗 (Tetsuro Saito)



健康管理センターから

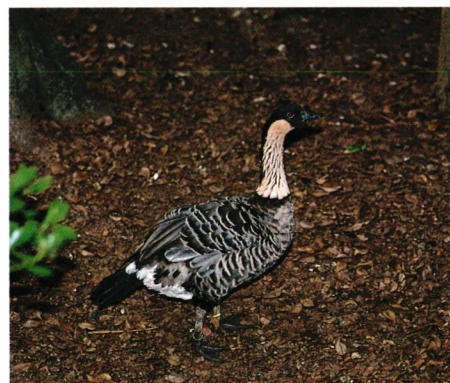
From Animal Health Center

「或るガンの物語」

3大疾患といわれる癌。癌で死ぬヒトが増えたのは、感染症のような他の原因が減り、平均寿命が延びたためとも言われています。動物園の動物も同様に飼育管理技術が向上した結果、近年では寿命が延び癌に代表される腫瘍性疾患の割合が増えて来ています。

最初に担当者の方からそのハワイガンの首にできものがある。といわれて診

たのは平成4年の5月でした。外見では首の一部が膨らんでいるだけでしたがくちばしをあげて内部を見るとかなり腫瘍が広がっており、摘出は無理、おそらく内臓等にも転移して



いると思われたため積極的な治療はせず、仲間たちと一緒に余生を送らせながら、経過観察という事になりました。また、千葉市動物公園で唯一繁殖経験のある雌個体だったため、隔離せずに繁殖を計るというねらいもありました。

その後病気の進行は遅く、平成6年には見事に産卵、孵化に成功しました。その後、徐々に腫瘍が進行して外見上展示には適さず、治療の見込みもないということで安楽死も検討されましたが、あえて積極的な治療をはかることにしました。

ここで腫瘍の治療法ですが、1. 外科的な摘出 2. 放射線療法 3. 化学療法（抗癌剤） 4. その他 の4つがヒトでも動物でも知られています。このうち2は野生動物の場合、設備の問題から一般的でなく1、3、4を組み合わせることが普通です。このハワイガンの場合、腫瘍摘出手術を結局7回も受けることになりました。

治療の途中で摘出した腫瘍を検査した結果、「円形細胞脂肪肉腫」という、いわゆる「癌」だという診断がつき何度か再発しましたが大分見た目にはきれいになり、退院して仲間のハワイガンの所へ戻っておりまして。平成10年2月7日、体の一部を食われた無惨な死体となって発見されました。おそらくカラスか猫の仕業と思われますが入院、治療生活や年齢による衰えがあって逃げ遅れたのかもしれませんが。

こうして彼女の癌との闘いは終わりました。のべ6年以上にわたる闘病でしたが彼女は少なくとも癌に負けたわけではないのだと思います。ただ治療する側にしてみると、はたしてこれでよかったのか、未だに答えは出ずに悩んでおります。

市川 心一 (Shinichi Ichikawa)



動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'98年1月1日～'98年3月31日

- 1月 1日 トナカイ (雌), 右角落角
- 1月 4日 アカハナグマ, 母親と仔3頭, 本日の午後から展示開始
- 1月 6日 「新春のつどい」開催
- 1月 7日 第1次開園以来飼育してきた, プタオザル (雌1), 肺炎で死亡
- 1月 8日 カササギガン (雄1, 雌2), 動物交換で新着
- 1月11日 セーブルアンテロープ (雄パズー), 肝硬変で死亡



「バードウォッチング」開催

- 1月12日 ソデグロバト (雄1, 雌1), 動物交換で新着
- 1月14日 兵庫県教育委員会, 動物病院施設視察 (5名)
- 1月15日 本日, 降雪の為, 子ども動物園利用者なし
- 1月20日 カリフォルニアアシカ (仔サニーとフクキタル) 餌付けの為に, それぞれ母親から分け予備プールに移動
- 1月21日 ムギワラトキ (雌1羽), 東京都多摩動物公園に寄贈
- 1月26日 ショウガラゴ (2頭) 繁殖
トナカイ (雌1), 動物交換で新着
オオカンガルー (雌1), 動物交換で搬出
- 1月29日 第102回関東東北ブロック動物園技術者研究会に, 樽川, 千葉出席 (江戸川区自然動物園にて) 昨年, 東京都恩賜上野動物園より譲り受けたホオカザリツルのタマゴは2卵とも中止卵であった。
- 2月 4日 海獣技術者研究会に, 水上出席 (5日まで, 伊豆三津浜シーパラダイスにて)
- 2月 7日 ハワイガン (雌1羽), 食害で死亡
パタスザル (雌2頭), 検疫明けで比較舎へ移動
本日より, ペンギン池水槽ガラス交換工事 (3月末まで) の為, オオサマペンギン他展示休止
- 2月18日 小学生職場訪問あり (府中市立第9小学校)
高校生職場訪問あり (千葉県立山武農業高等学校)

- 2月24日 オオカンガルー (雌1), 動物交換で新着
- 2月25日 ミーアキャット (雄1), 胃潰瘍で死亡
- 3月 1日 本日, 降雪の為, 子ども動物園利用者なし
- 3月 2日 動物病院エアコン交換工事終了
オオカンガルー (1頭) 繁殖 (顔出し)
- 3月 9日 動物交換で, 井の頭文化園園長他3名来園 [寄贈; シコクヤマドリ (雌1), 受贈; シマアジ (雄2, 雌2)]



シマアジ

- アカハナグマ (雌仔1), 秋田市へ寄贈
- 3月12日 シロガオマーモセット (3頭), 繁殖
- 3月13日 モウコノウマ (雌サーシャ), 東京都多摩動物公園への貸出しについて記者発表する
- 3月15日 ムフロンの出産始まる (3/15 1仔, 3/23 3仔)
- 3月16日 モウコノウマ (雌サーシャ), 繁殖用貸与で東京都多摩動物公園へ移動
イヌワシ, 1卵目産卵 (2卵目は3月22日に確認)
- 3月17日 カリフォルニアアシカ (雌若フクキタル), 動物交換で搬出
キタリス (雄1, 雌1), 動物交換で新着 (補償分)
- 3月18日 クロオビヒメアオバト人工孵化するが, 1日で死亡してしまう
- 3月21日 「春のズークイズラリー」開催
- 3月22日 「ワンポイントウォッチング」開催 (バードホール) (講師 飼育課 柴海)
- 3月24日 ハゴロモヅル (雄1), 鹿児島市より受贈
- 3月28日 第1次開園以来飼育してきたモウコノウマ (雄フユ), 肺うっ血で死亡
ワタボウシパンシェ (2頭), 繁殖
- 3月30日 ハゴロモヅル (雌1), 鹿児島市へ寄贈
小林正典 (Masanori Kobayashi)

編集後記

どうぶつこうえんニュースは今年度から発行回数を年4回 (季刊誌) とし, 誌面をフルカラーにしました。また4月5日には, 昭和60年4月28日の開園以来1千万人目の来園者を迎えることができ, 今後も, 動物公園の最新情報を紹介していきたいとスタッフ一同張り切っておりますのでご期待ください。次回発行予定は, 平成10年9月1日です。 (白井 剛)



パタスザル

